総合医学会報告

2023年シンポジウム：地域における国立病院附属看護学校の役割と意義，今後の展望

地域の歴史・文化と共に魅力ある看護学校を創る取り組みと今後の展望

佐藤美春[†]　河村哲治

第77回国立病院総合医学会
2023年10月21日　於　広島

IRYO　Vol. 78　No. 6（384－387）2024

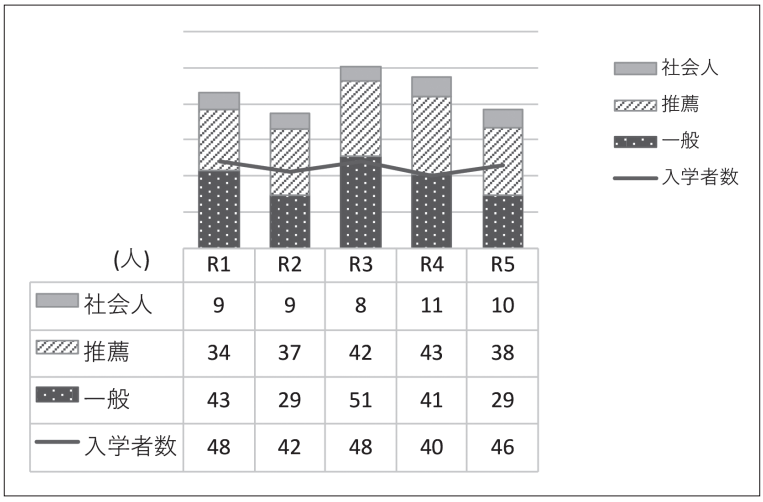
要旨　国際病院機構姫路医療センター附属看護学校は世界遺産の国宝姫路城を臨む好立地に在り，四季折々の姫路城の景観を楽しむことができる．本校の受験者数は減少傾向にあるものの入学生は定員を超えている．学生たちは９割以上が兵庫県出身者であり，毎年７から９割の学生は主に兵庫県内および国立病院機構（NHO）病院に就職する．姫路市の18歳人口推計では今後20年間で30％以上の減少が見込まれており，大学などへの進学率が55％程度で推移していることから先行きは厳しい．地域の歴史・文化と共に魅力ある看護学校を創る取り組みについて４点述べる．１．学修の一環として地域活動に積極的に参加している．地域のイベントでは看護学生のニーズは高い．姫路の広域災害訓練，姫路城周辺の環境清掃，姫路城マラソンの救護，老人保健施設での催しなどでは地元の若いマンパワーとして活躍している．２．地元の大学・多職種と連携・協力して看護教育に取り入れている．近隣大学薬学部の学生との相互学修，地元の母子との交流などを行っている．３．SNS やホームページを活用して姫路の歴史，文化と合わせて学生の活動を発信している．地域活動を支援し，インターネットなどを通じて情報発信することで，病院や看護学校の存在感を示す．４．教育実践能力の向上のために国立病院機構近畿グループ内の学校間および病院との連携を活かし，研究授業，研究発表，研修会，学校関係者評価，学校相互評価などの活動を行い，教育実践能力向上と教育の評価・改善への取り組みを行っている．今後の展望として，１．地域と連携することで，学校運営の基盤となる運営費を確保する．２．地域の看護学校，大学，多職種，関係機関と連携し，地域の人材としての学生を協同して育成するという観点から，地域に開かれた学校として存続する．３．ICT を活用し，学生および卒業生が帰属できるプラットフォームを作り，学生の学びや感性を活かした情報発信，情報交換や交流を進める．

キーワード　地域，看護学校，取り組み，今後の展望

緒　言

看護教育の大学化は1990年代後半から始まり，2023年に大学数は304校[1)]になった．社会情勢の変化や国民のニーズに対応できる，より質の高い看護職を養成し学校教育内容の充実のために，教育年限

国立病院機構姫路医療センター附属看護学校　教育主事　†看護師・看護教員
著者連絡先：佐藤美春　国立病院機構姫路医療センター附属看護学校　〒670-8520　兵庫県姫路市本町68番地
e-mail：sato.miharu.yh@mail.hosp.go.jp
（2024年３月28日受付　2024年８月２日受理）
Efforts and Future Prospects to Create an Attractive Nursing School with Local History and Culture
Miharu Sato and Tetsuji Kawamura
NHO Himeji Medical Center Nursing College
（Received Mar. 28, 2024, Accepted Aug. 2, 2024）
Key Words：local, nursing school, efforts, future prospects



(人)	R1	R2	R3	R4	R5
社会人	9	9	8	11	10
推薦	34	37	42	43	38
一般	43	29	51	41	29
入学者数	48	42	48	40	46

図１　入試区分別応募者数年次推移

を４年制にする動きになっている．看護教育の大学化が進行する中，３年課程看護学校の存続意義を問われている．現状として大学教育の一本化では看護師の養成数は十分に確保できない．一方で看護基礎教育の質を問う動きがあり，大学を中心に教員の教育実践能力の向上のためのファカルティ・ディベロップメント（Faculty Development）に積極的に取り組むという方向性が示されている．看護学校は，看護基礎教育の質を高めつつ独自性を打ち出し，現代の学生にとって魅力ある学校にするための策を早急に示さなければならない．

兵庫県内の看護職について，人口10万人当たりの看護職員就業者数は全国平均を下回り[2]，推計では2025年に約４千−１万人不足する見込みである[3]．一方，姫路市の18歳人口推計では今後20年間で30％以上の減少が見込まれており，大学などへの進学率が55％程度で推移していることを勘案すると，今後の学生確保は厳しい状況にある．

兵庫県内には看護大学が15校，看護学校は18校と競合校が多く[1]，とくに看護系以外を含めると，大学は全国で５番目に多くある．近隣の養成所では定員に満たない学校が出てきており，閉校の決まった学校もある．高校の進路担当教諭は，看護師を目指す学生の第一志望の多くは看護大学であるという．また，令和６年度から兵庫県が設置している大学について，県内在住者の入学金および授業料を学部，大学院共に所得にかかわらず無償化する方針が出されており，授業料などの諸費用が安いとされる養成所への影響は大きい．大学への優遇策が打ち出される一方で，本校は兵庫県からの看護師等養成所運営費補助金をいまだ獲得できていない．看護師養成には多額の運営費を必要とするため，兵庫県への申し出を重ねている．

国立病院機構姫路医療センター附属看護学校は世界遺産・国宝姫路城を臨む好立地に在り，四季折々の姫路城の景観を楽しむことができる．祭りやイベントが多く，老若男女，国籍を問わず多くの人々が集い，学校は賑わう街に近い．本校は兵庫県内で一番目に開校し75年以上の歴史を持つ．兵庫県内の看護学校の中で，本校は偏差値順位首位を維持している．本校の受験者数は減少傾向にあるものの入学生は定員を超えている（図１）．学生たちは地元志向が強く９割以上が兵庫県出身者であり，毎年７から９割の学生は主に兵庫県内および国立病院機構（NHO）病院に就職する．

人材を養成する役割を遂行し，存続していくためには，地域の医療ニーズに応える看護師を育成すること，地域に貢献できるという魅力や価値を発信し，選ばれ続けることが重要になる．地域の歴史・文化と共に魅力ある看護学校を創る取り組みと，今後の展望について述べる．

１．地域の歴史・文化と共に魅力ある看護学校を創る取り組み

附属看護学校の強みは，病院との強い連携と地域とともに歩んできた歴史にある．病院および学校への地域からの信頼は厚い．病院，学校共に人材育成に関しては明確な目標を持ち，協力できる体制にある．これらの強みを活かし，地域包括ケアシステムを見据えた，地域社会に開かれた看護教育をしていくことが重要になる．魅力があり選ばれ続ける看護学校であるための本校の取り組みを４点紹介する．

1）学修の一環として地域活動への積極的参加

地域のイベントでは看護学生への参加ニーズは高い．地域活動を授業科目の内容に位置づけたり，ボランティアとして参加したりしている．科目「地域・在宅看護概論Ⅰ」のフィールドワークとして，１年生が地域の高齢者と協働して姫路城周辺の清掃を行っている．地域の暮らしや環境を守る活動を体験し，看護の対象と地域特性を知る学習をしている．科目「看護総合マネジメント」では２年生が災害時の看護を学ぶ機会として，地域の広域防災訓練に被災者役として参加している．災害時の対応ができる能力を育成し，災害時の地域や組織の中での役割を理解することを目的にしている．大規模な訓練であり，学生たちは緊迫感，臨場感の中で多くの体験をし，学んでいる．また，１年生の希望者が姫路城マラソンの救護員ボランティアに参加し，地域における役割を認識し，社会貢献を通じて学びを得ることを促している（写真１）．その他，老人保健施設での催しにおいてもボランティアで活躍している．地域の一員として活動し，学びを得ると同時に，地元に貢献できる人材として看護学生を認識してもらえる機会になる．地域の人々の療養の場が多様化し，地域包括ケアが推進される中，病院以外にも在宅医療，介護や福祉などさまざまな場面で看護のニーズが拡大していることを認識するために，学外で学修する機会は有効である．

2）地元の大学・多職種との相互学修

３年生の研修として近隣大学薬学部の学生とチーム連携について学ぶ相互学修を実施した．専門職としての役割やスキルを相互に理解し，チーム連携の認識を深めている．事例を用いてアセスメントや対処を考えることで，双方の共通点や視点の違いを理解する機会になった．また，薬学部学生が在宅医療に携わるための技術習得を希望したことから，当校教員によるバイタルサイン測定，創傷処置，筋肉内注射などの演習を実施し，地元新聞に掲載された．近隣の学校との相互学修は，看護学生にとっても多職種の学生にとっても有意義な学修の場であり，看護学校が貢献できる機会でもある．

母性看護学実習では，地域の育児サークルとの連携教育を行っている．乳幼児期の子とその母との触れ合いを通して児の成長・発達および母子・家族関係について学ぶ．母子と接する機会の少ない学生たちは活き活きと参加しており，参加する母子は地域で活動する機会を得て，貢献できる喜びを感じていた．地域の人材を活用し学修に取り入れることは，地域で生活する人々の現状を知るよい機会になる．

写真１　救護員ボランティアの様子

3）姫路の歴史，文化と共に学生の活動を発信

学生募集活動としてSNSやホームページの活用，高等学校訪問などにより学校の魅力を伝えている．本校の応募者の大半は，インターネットで情報を得ている．地域の特性を活かした活動について，インターネットを通じて情報発信することで，病院や看護学校の存在感を示す．

また，推薦指定校を中心に高等学校へ訪問し，看護師になるための進路の選択と将来性，本校のアピールを行っている．とくに多様なキャリアデザインに関する説明を丁寧に行っている．看護職の活躍できる場が広がっており，AIによって奪われない需要の高い職種であることを強調している．また，大学との違いについて，学費，学歴，就業後の給与や諸待遇，キャリアパスに関する質問が多い．将来，専門看護師，診療看護師などを目指す場合は修士課程修了が条件になるになるため，キャリアパスにおいて専門学校卒業は不利になるという認識の高校教諭や学生は多い．大学院へは専門学校卒業後に看護職の経験などによる個別審査で進める場合があるとこを伝えている．

また，学生が自身の出身高校を訪問し，現状の学びを高校教諭に説明する機会を設けたり，オープンキャンパスにおいて学生たちが学習した成果を参加者に発表したりしている．その他，業者の企画する進学相談会にも年間40回以上参加している．また，病院が行う中・高生を対象とする看護体験に，学校も演習の協力をしている．マンパワーが限られる中，募集活動には最大限の努力をしている．

4）教育実践能力の向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取り組み

国立病院機構近畿グループ内の学校および病院との連携は密にできている．この繋がりを活かし，研究授業，研究発表，研修会，学校関係者評価，学校相互評価などの活動を行い，教育実践能力向上と教育の評価・改善への取り組みを行っている．看護学校が大学と同等以上のレベルを維持していくために，今後も継続していく．看護教員は看護師としての臨床経験に強みを持ち，その上で教育の専門性を修得する．看護教員を経験して得た教育スキルは，臨床との人事交流を行う組織においても活用できる能力になる．さらに臨床と学校との人事交流によって，看護教育の質を向上させることにも繋がる．

2．今後の展望

人口減少に歯止めがかからない今後を見据え，優秀な人材を育成する使命をもつ附属看護学校は，学校経営の安定化と戦略的に存続への方向性を検討していかなければならない．今後の展望として次の3つの観点から述べる．

1）地域と連携することで，学校運営の基盤となる運営費を確保する．

就職率などの地域貢献度を示し，地方自治体や関係機関と積極的に連携することで支援・協力を得ることを目指す．とくに兵庫県の看護師等養成所運営費補助金の獲得が喫緊の課題であり，交渉を続けていく．応募者の増加のためには，高校生はもちろん，中学生およびリカレント教育を望む社会人にも看護に興味をもってもらう働きかけを行う．学生の地元および機構への帰属意識を高めることで，県内および国立病院機構へ安定的に優秀な人材を育成・供給できるように取り組む．

2）地域に開かれた学校として存続する．

地域の看護学校，大学，多職種，関係機関と連携し，地域の人材としての学生を協同して育成するという観点から，地域に開かれた学校として存続する．前述の地域活動への参加や人材の活用などはこれからも積極的に続けていく．近畿グループ内病院・学校との連携，兵庫県と看護協会，兵庫県内の看護学校との連絡体制は整備できている．連携・協同して人材を育成できるシステム作りや体制整備をさらに進めることで，学生たちは安心して地域に根差し，活躍する意識を持つことができる．

3）ICTを活用し，学生の学びや感性を活かした情報発信・交換や交流を推進する．

ICTを活用し，学生および卒業生が帰属できるプラットフォームを作り，学生の学びや感性を活かした情報・情報交換や交流を進める．現代の学生たちの感性に響くコンテンツを作り，発信していく．学生や卒業生同士の関係性を大切にすることへの支援は，地元や就職先への定着に繋がる．

3．おわりに

看護学校として存続するためには，枠にとらわれず，柔軟な発想力を持って運営していくことが課題になる．地域特性を活かした学校の独自性を示し，現代の学生の感性に働きかけられる魅力ある看護学校として存続できるよう努める．

〈本論文は第77回国立病院総合医学会シンポジウム「地域における国立病院機構附属看護学校の役割と意義，今後の展望」において「地域の歴史・文化と共に創る魅力ある看護学校」として発表した内容に加筆したものである．〉

利益相反自己申告：申告すべきものなし

［文献］

1）看護学校便覧 2023：医学書院
2）看護師等（看護職員）の確保を巡る状況：第2回看護師等確保基本指針検討部会，2023.（Accessed Fub. 2, 2024, at https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001118192.pdf）
3）医療従事者の需給に関する検討会　看護職員需給分科会　中間とりまとめ：2019.（Accessed Fub. 2, 2024, at https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000567573.pdf）